



■はじめに

「ぎふ清流 GAP 評価制度推進研修会」を12月2日(火)に、みの観光ホテルで開催したところ、大変多くの方々に参加いただきました。ありがとうございました。

研修会で発表・講演いただいた、GAPを活用し経営改善に取り組んでおられる先進的な事例について紹介します。

■ 県内事例発表

1 GAPの取組みにより「ブラック企業」から「ホワイト企業」へ転換を図った事例紹介 合資会社 源丸屋ファーム 曾我 康太氏(下呂市 品目:米)

- ・朝のミーティング時間を十分確保。着席し、事務所に設置された大きなモニターを使用しながらほ場の様子や作業内容等を見える化し、配車計画、作業の段取りなどを丁寧に行った結果、業務の効率化につながり残業時間が280時間減った。
- ・業務内容を200のパーツに細分化し、仕事に要する時間を把握することで、年間カレンダーが作成できた。その結果、全員のスケジュール管理ができ、従業員の看護休暇、小学校等行事への参加も容易に可能となった。

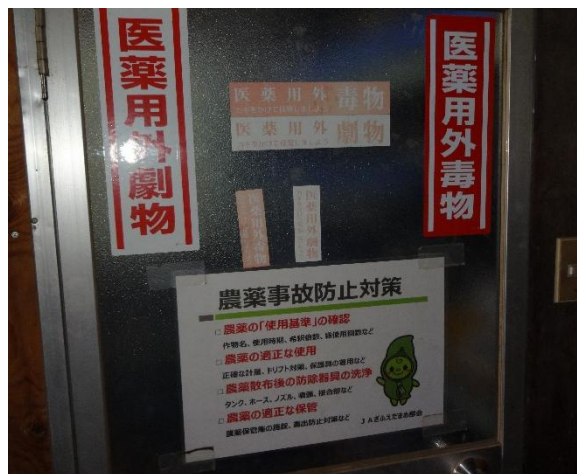


【着席し、時間をかけて行うミーティング】

2 経営継承をきっかけにGAPの取組みを始めた事例(岐阜市)

JAぎふえだまめ部会 栗本 和弥氏(岐阜市 品目:えだまめ)

- ・父が亡くなり経営主体が自分となり、大きなプレッシャーの中で業務の引継ぎにGAPの手法を活用することで作業内容の把握や段取り、経営主として従業員への仕事の割り振り等の役に立った。
- ・労災案件が発生したが、GAPを活用して事前にシミュレーションしていたことで、早急に対応することが出来た。また、リスク評価に基づき作業や保管方法、表示などを改善することで、未然に大きな事故を防ぐことが出来た。



【改善後の農薬保管倉庫の様子】

3 農作業の事故をきっかけにGAPの取組みを始めた事例紹介

有限会社春見ライス 代表取締役 春見 秀則 氏（美濃加茂市 品目：米）

- ・過去に農薬による河川の汚染、従業員の作業時の負傷等苦い経験があった反省から、GAPを活用して経営改善、法令順守、作業安全、記録の習慣化に取り組んだ。
- ・GAPを活用することで、トラブル発生前に対策を実施し大きなトラブルが無くなった。
- ・作業車両のナンバー取得、燃料保管など、遵守すべき事項の整理が出来た。



【改善後の燃料保管の様子】

■ 講演

持続可能な農業経営に GAP 改善はマスト！ 200%生産効率を向上せよ！

＜講師＞前田農産食品株式会社 代表取締役社長 前田茂雄氏（品目：小麦、ポップコーン、ビート 北海道本別町）

- ・GAP は、PDCA サイクルの循環により経営改善が出来、経営の持続を可能にする仕組み作りの手法である。
 - ・従業員それぞれリスクの見方は違うが、GAP の取組みにより目合わせが可能となっている。
 - ・六次産業化のタイアップ企業の選定や、農商工連携をするのに、企業側は GAP の取組みをしている会社を選択しやすい。
- レンジで調理可能なポップコーン



の開発、生産・販売拡大にもつながった。【工具、オイル類等の置き場所を明確に表示】

- ・GAP を活用した事例として、機械の整備場所にメンテナンスに必要な器材・資材を、収納場所やコンクリートの床に置き場所を表示することで、作業に間違いがなくなり、少人数で多くの機械を効率的にメンテナンスできるようになった。

■「ぎふ清流GAP評価制度」に関する情報

Webサイト 検索 ぎふ清流GAP（岐阜県公式ホームページ）

制度の概要（要領・要綱の閲覧）、申請様式等のダウンロード、認証農場の紹介

■「ぎふ清流GAP通信」に関するお問い合わせ

（一社）岐阜県農畜産公社 ぎふ清流GAP推進センター

電話：058-216-1566 FAX：058-216-1567 Eメール：gifu-gap@gifu-notiku.com

